

平成31年1月15日(火)

### 小正月「無縁坂」

1月15日は、小正月。正月から働きつめの女性陣の手を少し休めるために設けられたという行事である。

本来旧暦だが、明治の改暦後は新暦1月15日、もしくは、2000年からは成人の日(1月第2月曜日)に行われる場合もある。

元日(または元日から1月7日まで)を大正月と呼ぶのに対してこのように呼ぶ。正月(字義通りには月末まで)の終わりとも位置づけられる。小年(こどし)、二番正月、若年、女正月(おんなしょうがつ)、花正月。返り正月、戻り正月と呼ぶ地方もある。。

繭玉をつくって養蚕の予祝をおこなったり、「道具の年越し」とし農具のミニチュアをこしらえ豊作を祈願する習慣が残っている地域もある。

年神や祖霊を迎える行事の多い大正月に対し、小正月は豊作祈願などの農業に関連した行事や家庭的な行事が中心となる。本来は人日まで竈を休ませるはずの松の内に、忙しく働いた主婦をねぎらう意味で、女正月という地方もある。場所によっては男性が女性の代わりに料理などの家事を行う日とされる。

小正月で思い出すのは、上野不忍池から本郷界限に歩いて向かう時、旧岩崎弥太郎邸の後ろにある無縁坂という坂である。湯島一丁目から湯島四丁目にかけての緩やかな坂の名前である。さだまさしシリーズ最終版「無縁坂」の歌詞である。

「無縁坂」

さだまさし作詞・作曲

母がまだ若い頃 僕の手をひいて  
この坂を登る度(たび) いつもため息をついた  
ため息をつけば それで済む  
後(うしろ)だけは見ちゃだめと  
笑ってた白い手は とてもやわらかだった  
運がいいとか 悪いとか

人は時々口にするけど  
そういうことって確かにあると  
あなたを見ててそう思う  
忍ぶ 不忍(しのばず) 無縁坂 かみしめる様な  
ささやかな 僕の母の人生

いつかしら 僕よりも 母は小さくなった  
知らぬまに白い手は とても小さくなった  
母はすべてを 暦に刻んで  
流して来たんだろう  
悲しさや苦しさは きっとあったはずなのに  
運がいいとか 悪いとか  
人は時々口にするけど  
めぐる暦は季節の中で  
漂いながら過ぎてゆく  
忍ぶ 不忍(しのばず) 無縁坂 かみしめる様な  
ささやかな 僕の母の人生

